

広島平和記念式典派遣に「参加して感じたこと」

本丸中学校 二年 馬場浩平

原子爆弾の投下。一瞬にして広島の人々の尊い命が奪われました。原爆の話は教科書やテレビでしか見たり聞いたりしたことがありませんでしたが、今度初めて広島を訪れ、実際に原爆ドームや平和記念館に行くと、当時の惨劇を目の当たりにしました。黒や濃いものは熱の吸収が大きく、人がいた場所には影となく残り、人々の傷を負った姿など目を背けたくくなるような写真を見た時は「胸が詰まりとても悲しく切ない思いになりました。今までに感じたことのない戦争の悲惨さを感じました。近に感じました。」「国にとつては何十万人分の一人でも、私たちにとつては、父は全てです。」「たに被爆者家族の言葉を讀んだ時、大切な家族を失った悲しみが伝わり、命の尊さや平和の大切さを改めて感じました。二度と戦争や原爆という誤ちをくり返してはいけません。強く強く思いました。そして、教科書だけでなく感じることのできないこの思いを自分の家族や友達にも伝え、皆一度は広島を訪ねてほ

しいと思いました。

原爆投下から七十三年たつた今、被爆者の

高齢化が進み、語り継ぐことが難しくなつて

きています。私は今回の学習を通して、今、

生きていることに喜びや感謝を感じています。

この平和を守り続けるため、原子爆弾投下と

いう悲劇を風化させないといけないという思い

を強く持ち続けると同時に、後世へと語り継

いでいく責任が私たちにはあると強く感じま

した。